

# 繊維工場 2年ぶりに灯

中能登・能登部  
駅前一等地

## 地元製造業者が取得

# 9月移転、30人雇用へ

中能登町のJR七尾線能登部駅前の一等地に広がる繊維工場に2年ぶりに灯がともる。3日までに地元の繊維製造業「良川サイジング」（同町徳前）が合繊などの生産拠点として取得、9月にも本社工場を同所に移転する。同社は織布工程を中

心に30人を新規雇用する方針を固めており、同町は「経済の閉塞感を打ち破る明るい話題だ」と歓迎している。

同社が取得したのは2009（平成21）年に自己破産した合繊加工系織物業「丹後」のカミムラ工場（同町能登部上）で、

操業再開が決まったカミムラ工場—中能登町能登部上

良川サイジングによると、軽量素材の好調を受け筆頭株主の丸井織物（同町久乃木）が従来手掛けてきた伸縮性に優れた衣料の裏地や産業資材などを肩代わり生産することになった。

リーマン・ショックによる生産調整が一段落した昨夏以降、丸井織物からの受注が倍増したことを受け、当初は本社に隣接する敷地で工場を新設する予定だったが、投資対効果で採算がとれないと断念。本社工場の2倍の規模を誇るカミムラ工

場なら、急な増産にも応えられると取得を決めた。能登部駅は鹿西高生が登下校で利用するほか、駅周辺には鹿西中や「若草団地」などの住宅地が広がる。同町によると、操業の再開は経済の活性化だけでなく夜間の防犯向上にもつながるといふ。山本隆士社長は「立地条件がよく、利用価値はかなり高い。生産拠点としてしっかり整備した」と話した。